

【講演会 & フォーラム】

# ルーツ言語を 学ぶということ



昨今のグローバル化によって人の往来や国際結婚が急速に増加し、日本にルーツを持ちながら海外に定住する子どもの数も増加の一途をたどり、今後もさらに増えていくことが予想されます。かれらは現地のことばや学校で新たに習得する他の言語とともに、何らかの形で日本語とも接しています。子どもたちにとって、ルーツ言語の日本語を学ぶということは、どのような意味を持っているのでしょうか。

この問いをめぐり、この秋、チーム・もっとつなぐと日本文化普及センターは、北米と日本から日本語教育の専門家をお招きし、海外に暮らす子どもたちの「〈ルーツ言語〉としての日本語」の学びについてご講演いただき、皆様と共に語り合うフォーラムを開催いたします。

日曜日の午後のひととき、子どもたちの「こころ」と「ことば」について一緒に考え、また、ご自身のそれについても思いを巡らせてみませんか。

日時

2019年9月1日(日) 13:30~17:30 (受付開始13時)

講師

カルダー淑子先生

(母語継承語バイリンガル教育  
(MHB) 海外継承日本語部会代表)

野山 広先生

(国立国語研究所  
日本語教育研究領域准教授)

福島 青史先生

(早稲田大学大学院  
日本語教育研究科教授)

場所

日本文化普及センター

Japanisches Kultur – und Sprachzentrum e.V.

Rossmarkt 13, 60311 Frankfurt am Main (ドイツ式4階)

定員

40名  
申込順

参加費

€15  
当日支払

対象

日本語の教育や  
家庭学習に関わり  
のある方

・当日の託児サービスはございません。

【共催】 チーム・もっとつなぐ  
日本文化普及センター

【後援】 国際交流基金  
ケルン日本文化会館

お問い合わせは

チーム・もっとつなぐ

[motto.tsunagu@gmail.com](mailto:motto.tsunagu@gmail.com)



**お申込み** は、オンライン申込フォームに直接ご入力の上、

**8月16日（金）**までに <https://forms.gle/fka3m9aSAJVVAYht9> へ



### 【講師プロフィール】

#### カルダー 淑子

(かるだー・としこ) 先生 / 母語継承語バイリンガル教育 (MHB) 海外継承日本語部会代表、  
ジョーンズホプキンス大学国際問題高等大学院日本語講師

米国コロンビア大学大学院・ジョージワシントン大学大学院修了。日本語教授法及び教育行政学を専攻。プリンストン大学、マーサー州立コミュニティ・カレッジなどで日本語を教える。在米で子育てをする中で、ニューヨークを基点に継承語教育に関わり、1995年からプリンストン日本語学校（文科省認可補習校）で継承語コースの立ち上げにあたる。2006年から2015年まで同校理事長。2012年にMHBの有志と海外継承日本語部会を立ち上げ、以後、北米、欧州、アジア地域の継承語の先生方のネットワーク化を支援。

#### 野山 広

(のやま・ひろし) 先生 / 国立国語研究所日本語教育研究領域 准教授

早稲田大学大学院 および豪州・モナシュ (Monash) 大学大学院修了。国内外の日本語教育機関の非常勤・客員講師や、文化庁文化庁国語課の専門職 (日本語教育調査官) を経て、2004年から国立国語研究所日本語教育部門 (当時) に勤務。主任研究員、領域長等を経て2010年から現職。1990年代から、地域の日本語学習支援や年少者の言語教育関連の事業・研修などに従事。専門は、「多文化・異文化間教育」「日本語・国語教育」「基礎教育保障学」「言語政策研究」等。

#### 福島 青史

(ふくしま・せいじ) 先生 / 早稲田大学大学院日本語教育研究科教授

早稲田大学大学院日本語教育研究科博士後期課程修了。博士 (日本語教育学)。1994年よりJICA、国際交流基金の派遣により、メキシコ、ウズベキスタン、ロシア、ハンガリー、英国、ブラジルにて勤務。2018年より現職。転々とした20年の海外生活において、様々な環境で二人の娘が育つのを体験する。専門は「言語政策」「市民性教育」「海外の日本語教育」。

第1言語、母(国)語、継承語、出自語、ルーツ言語とは…?

ルーツ言語を学ぶ意味は?

ここでドイツで、なぜ日本語?

講演のあと、後半の主役は皆さんです。多様な背景をもつ色々な人と「ルーツ言語を学ぶということ」について、意見や疑問を共有しながら考えてみませんか。

### 【プログラム予定】 (※当日の進行状況により変更の可能性有)

13:00- 受付開始

13:30-13:45 開会あいさつ&趣旨説明

**【前半】 講演** カルダー淑子先生：日本語教育推進法案と継承語教育の今後  
 13:45- 福島青史先生：ブラジルの日系人の事例から考える日本語  
 15:30 野山広先生：言語・リテラシー・子どものアイデンティティ (※途中休憩予定)

**【後半】 本音で話す〈ルーツ言語〉教育**  
 15:30- 対談： 複言語キッズだった当事者の語り  
 17:00 World Café： 講師の先生も交えて、参加者同士の語り合い

17:00-17:20 まとめ&閉会あいさつ

(※この間、休憩自由)

### ● 本フォーラムの企画運営団体〈チーム・もっとなぐ〉は…

複言語・複文化主義の言語教育観とヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)にもとづいて、自分の言語レポーターのひとつとして日本国外で日本語を使用している子どもたち (複言語キッズ) の「ことばの学び」について考え、かれらの「できること (Can Do)」を親子が一緒に家庭で記録する「ポートフォリオ」の制作に取り組んでいる有志4人の集まりです。

2015年春チーム結成からこれまで、ドイツ国内外でワークショップや講演会を開き、複言語・複文化の視点から子どもたちの「ことばの成長」を捉えるという考え方を参加者の方々と共に共有してまいりました。そして2019年6月、これまでの活動成果と多くの方々の意見を反映させながら試行錯誤を重ね、パイロット版『ことのはポートフォリオ』を作成しました。フォーラム当日には閲覧コーナーを設ける予定です。ご家庭、ご所属先での試用にご興味のある方は、会場でお気軽に私たちに声をおかけください。



- 【チームメンバー】
- 松尾 馨 (ギムナジウム教員、こども日本語クラブでんでんむし主宰)
  - 三輪 聖 (ハンブルク大学日本文学専任講師・ドイツVHS日本語講師の会北ドイツ支部代表)
  - 札谷 緑 (ドイツVHS日本語講師の会ヘッセン州支部代表・ギーセン大学非常勤講師)
  - 勝部和花子 (バヴァリアン・インターナショナルスクール JFL, JHL担当)

